



Berry Moon

読谷村いちご



prologue

はじめに

青い空と紺碧の海、日本一美しいと言われている夕陽。
私たちのいちご農場は、このような美しい自然に囲まれた読谷村にあります。

農業が盛んな地域として知られる読谷村で、
新たな特産と言われるようなものを作り出し
地域の発展に少しでも貢献したい。

そのような思いから、ここ読谷村の地元資源を活用した
いちご事業に取り組みました。

background

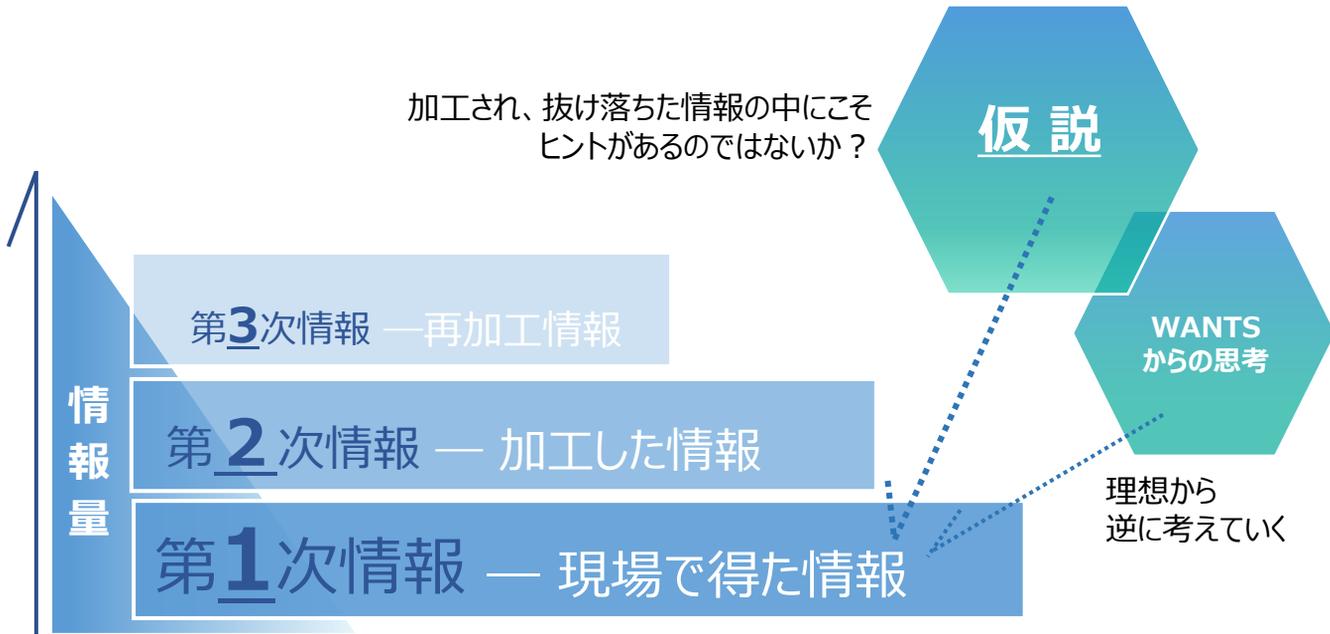
沿 革

私どものグループ企業は、
これまで農業機械等のファイナンスを通じて、
全国の農業事業者様に寄り添った事業を展開してきました。

しかし、近年の農業を取り巻く環境は、
農業従事者の高齢化や担い手不足等
多くの課題を抱えています。
同様に、地方では
高齢化や産業衰退の影響で都市部への人口流出による
過疎化が進み、日本の社会課題となっています。

このような中で当社は、
食・農分野での事業活動を通して、農業振興や6次産業化や、
商業・観光業と連携した地域活性化に取り組み、地方創生に貢献いたします。

WANTSからの思考×現場で得た学び



concept

沖縄いちご事業コンセプト

異業種からの新規農業参入

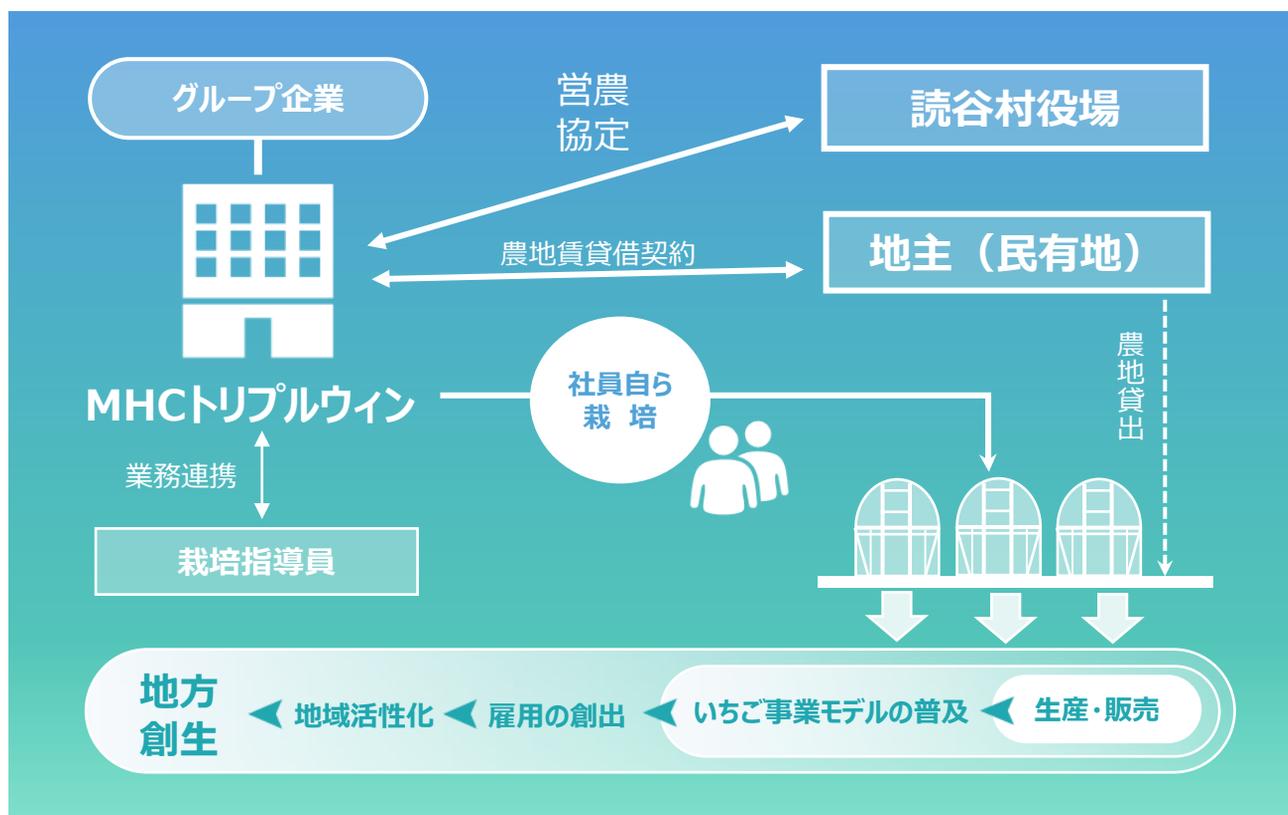
農業を取り巻く環境が厳しさを増す中で私どもは、「農業事業者と同じフィールドに立ち、今、まさに生じている様々な課題を共有し、応えていく必要性」を切に感じて参りました。

そのような中、私どもにできることは、レポートや統計のみに縛られることなくこれまでとは別のアプローチにより新たな活路を拓くことではないかと考えています。異業種からの「新規参入」という原点を活かしながら私どもは食・農分野の明るい未来を切り拓いて参ります。

私どもの農業への新規参入で得た気付きや知見と幅広いネットワークを活かした新たな農業のかたちと未来にご期待下さい。

about project

沖縄いちご事業



沖縄県読谷村での安定生産技術の確立

亜熱帯気候の沖縄県はいちご生産に不適地とされてきましたが、先端技術、戦略品種の投入によって、読谷村で品質の良いいちごの生産技術を確立し普及・拡大することで、同村の地域活性化に貢献しています。

沖縄県での地産地消

収穫した読谷村産いちごを地域の皆様や観光客に食べてもらう「モノ」の価値提供と、将来的には観光農園を立上げ、観光オフシーズンの集客と、同村でいちご狩りというスペシャルな体験をしてもらう「コト」の価値提供を実現することをめざしています。

いちご事業のパッケージ化

いちご事業に必要なハードとソフトをパッケージ化することで新規農業参入希望者をサポートします。農業用ハウスなどの生産設備のみならず、生産技術の標準化のための農業IoTサービスなどをご提供します。



about brand

『Berry Moon』の由来



Berry Moon®

ストロベリームーンと呼ばれる、夏至の頃に現れる赤みがかった満月を見ると幸せになれると言われています。

5枚の愛らしい白い花びらの花を咲かせた後に実をつける「いちご」。自然の節目としてとらえ、讃えてきた美しい満月。

この名前とロゴマークには、
『私たちが自然豊かな読谷村で作る
「いちご」の収穫への感謝と豊作を祈るとともに、
召し上がっていただく方の幸せと
読谷村の益々の発展を願う』という想いを込めています。



progress

沖縄いちご事業の歩み

2015	● 事業の企画化、プロジェクト発足
2016	3 ● 事業用地の確定
	10 ● 読谷村農業委員会より農地法3条に基づく許可
	11 ● 読谷村と営農協定書の調印式を実施
2017	2 ● ハウス竣工
	3 ● 試験生産開始
	5 ● 初収穫
	10 ● 本格生産開始
	12 ● 『Berry Moon』ブランド立ち上げ、いちご販売開始 読谷村ふるさと納税の返礼品として採用開始
2018	○ 地元リゾートホテルにて『Berry Moon』採用
	5 ● グローバルGAP認証取得（オプション1 / 青果物） *2024年5月1日にて認証終了 ○ 読谷村スポーツキャンプでのウェルカムフルーツとして採用